図工・美術部会

一人ひとりの力を引き出す
題材と授業をどうつくっていくか

Ⅰ　研究の内容

【研究の柱】

1　子どもの課題や実態にあった題材と授業づくり
・子どもの課題や実態をどのようにとらえ，どのような力をつけさせたいと考えて題材を設定していくか。
・一人ひとりの力を引き出すために，授業をどうつくっていくか。
2　子どもの表現活動によりそう支援のあり方
・子どもがどこで悩み，どのような工夫が生まれたのかを読み取り，子どもの表現活動によりそった支援を工夫する。
3　つながりと広がり，先を見通した実践の積み重ね
・小学校と中学校，子ども同士，子どもと教職員のつながり，また題材と題材の関連を図って美術教育を進めていく。

1　研究の柱に沿って小中合同で授業案の検討，実践，検証を行う。また一人一実践による作品研究を実施し，授業のあり方を考える。

（1）小学校の実践から（1月統一授業研の実践）

「まほうの　はさみ・・・　つなげよう　ゆめ！」　　青柳　仁美（大藤小2年）

紙皿や紙コップなどをはさみの使い方を工夫しながら切り，切ったものを使って作品づくりを楽しむ活動を行った。子どもにとって抵抗感があり，尚かつ切り終えると立体的になったり，バネのような動きをすることもある紙皿や紙コップを材料にすることで，子どもたちは夢中になって取り組んでいた。また切った形を色々な方向から見たり，他の材料を加えたりしながら変身させることにより，一つの材料の生かし方や面白さを体感し，表現が広がっていった。身近ではあるが新しい材料の提示という点でも，学ぶことの多い実践であった。

（2）中学校の実践から（8月統一授業研の実践）

「ようこそ，[　　]美術館へ！！」　　雨宮　智美（塩山中1年）

美術館の学芸員になって，美術作品や作家について調べたり，発表したりして味わう学習を行った。他の人より少しでも詳しく説明できる作品をつくることにより，他の作品への興味や，鑑賞への意欲の向上を期待して生まれた実践であり，鑑賞は楽しいものであることを生徒に感じさせることができた。またこの実践により，生徒に主体的に活動できたという実感をもたせるためには，教師が授業で生徒につけたい力を明確にし，生徒の姿を予想し，ワークシートや発表方法の例示などの準備や支援をしっかりと行うことの大切さを再確認することができた。

（3）県教研レポート

「○○美術館，本日オープン！」　　三枝　清美（加納岩小4年）

「ようこそ，[　　]美術館へ！！」　　雨宮　智美（塩山中1年）

美術館や博物館に自ら出向くことの少ない子どもたちに対し，楽しみながら主体的に作品と向き合うことができる授業，多様な視点から作品を見つめ思考を働かせるための工夫などについて，発達段階を考慮しながら小中で行った鑑賞の授業について報告した。県教研では，広がりの期待できる新しい鑑賞の授業であるために多くの意見や質問が出され，ねらいに対して教師の意図がはっきりし，題材名の工夫や，子どもの気づきのために教師が準備や支援をしっかりと行っていることが高く評価された。

2　実技研修を実施し，授業へ還元する。

「光の箱～ミラーテープを使って～」の作品づくりと，アート・ゲームを研修した。光の箱では，ミラーテープを筒状に丸めて作った箱の中に並べていく時に，子どもたちがどこでつまずくかや必要な支援，発想のポイントなどを学ぶことができた。またアートカードを使ったゲームでは，楽しみながら視覚や言語などを用いて鑑賞する力を育てていく活動を体験することができ，授業の展開の仕方について考えることができた。

3　研究会会場を持ち回りし，各校の学習環境や展示状況を参考にする。

実践作品や各教室の展示，図工室の材料や用具の準備の仕方など，いかに学習環境や鑑賞の場を作るか等も学び合った。

II　成果と課題

1　成果として

（1）小中合同で研究することにより，図工と美術のつながりや各学年で扱う題材や教材など，ぞれぞれの発達段階を意識した授業づくりに取り組むことができ，つけさせたい力（ねらい）を明確にしながら研究していくことができた。授業研究では，鑑賞活動・造形活動のあり方について多くを考えさせてくれるすばらしい授業が提供され，部員の学び合いを深めることができた。

（2）子どもの実態や発達段階，課題からテーマにそった授業をし，一人一実践を報告して討議することで，題材と授業づくりについて学び合い，考え方・捉え方などの共通理解を図ることができた。また題材名も重要な要素であることも確認できた。

（3）会場を提案校に持ち回りにし，各校の掲示や学習環境などの工夫等を見たり聞いたりすることで鑑賞学習や環境づくりの参考にすることができた。

（4）夏季学習会で実技研修を取り入れることで，指導法や指導上の留意点などをより具体的に学習することができ，授業に還元することができた。

2　課題として

（1）図工美術の時間の削減や部員の減少などのため，部会で研究した内容や教科の特性などについての考えが十分に理解され広まるまでいたっていない。各校に還元し広めていくための工夫や方法を考えていかなければならない。そのためにも少しでも多くの部員による部会体制がとれるとよい。

（2）新しい表現方法や技法・指導法について常に学んでいくためにも，個人の力量を高めたり，実際に体験し経験を積みながら研究していく必要がある。

（部長　古屋　ゆか）